

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870300878		
法人名	有限会社ケア・コンフィデンス		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 しょうわ家族		
所在地	土浦市荒川本郷218-173 (電話) 029-841-5666		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】 (平成20年4月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年4月18日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.4 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	常陽医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自由と尊厳をもって主体性のある生活が送れるよう、質の高いサービスを提供する」との理念を掲示している。  
ホームは季節の草花や利用者に安全な食材を提供できるよう、何種類もの自家野菜を作っている。  
多方面に安心・安全に暮らせる気配りがある。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケアサービスは、前回に引き続き外部評価を活かし全職員で取り組むことが望まれる。 職員の外部研修への参加については、実践研修や認知症介護専門研修のほか、自発的に音楽療法研修を受講するなど改善が図られている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員がユニットごとに改善課題を話し合っているが、外部評価の結果を全職員で取り組むとともに、評価を活かした具体的な改善を計画的に取り組むことが望まれる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回(奇数月)運営推進会議を開催している。 運営推進会議の委員は学識経験者、民生委員、地区代表者、利用者代表2名を含む9名で構成している。 外部評価結果を議題とし、サービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見や苦情等については、担当者を明確にし、その都度口頭で対応しているが、家族会の組織や意見箱を設置するまでには至っていないので、管理者や職員に意見・苦情等を表出しやすい無記名式のアンケート等の実施を期待する。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の初午や夏祭りに参加するとともに、ホーム主催の餅つきやひな祭りなどに地域のボランティアに協力を得ている。 自治会に加入し、地域の方々と馴染みの関係を構築している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由と尊厳をもって主体性のある生活ができるよう、質の高いサービスを提供する」との理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を共有し、利用者の生活の質の向上を目指してケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の初午や夏祭りに参加するとともに、ホーム主催の餅つきやひな祭りなどに地域のボランティアに協力を得ている。 自治会に加入し、地域の方々と馴染みの関係を構築している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員がユニットごとに改善課題を話し合っているが、外部評価の結果を全職員で活かす取り組みまでには至っていない。	○	外部評価を活かした具体的な改善を計画的に取り組むことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月)運営推進会議を開催している。 運営推進会議の委員は学識経験者、民生委員、地区代表者、利用者代表2名を含む9名で構成している。 外部評価結果も議題とし、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が地域密着型サービス運営委員会や介護認定審査会の委員になっており、市と連携するとともに、気軽に相談できる関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に「スタッフからの一言」として、職員一人ひとりから温かみのある手書きのメッセージを添え、家族に利用者の暮らしぶりを報告している。 また、訪問の少ない家族も月1回は来訪してくれるので、その都度近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等の対応方法については、担当者を明確にしその都度口頭での対応となっているが、家族会の組織や意見箱を設置するまでには至っていない。	○	管理者や職員に意見や苦情等を表出しやすい無記名式のアンケート等の実施を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後職員の離職はほとんどなく、利用者との馴染みの関係を構築している。 新規採用職員については挨拶回りはせず、前から居る雰囲気ですぐに接した方がよいとの思いから自然に利用者に溶け込むようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や専門者研修を計画的に受講し、月例のケア会議時に報告するとともに、参加できなかった職員にも周知徹底している。 職員が個人的に音楽療法研修や認知症介護専門研修などを受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者のネットワークはあるが、加入していない。 他事業者と視察研修等で交流をしている。	○	地域の同業者協会に加入するとともに、相互訪問や合同研修等で交流し、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に施設見学に来てもらったり、職員が家庭訪問をして「ごはんを食べに来ませんか」と誘うなど、打ち解けた関係づくりに配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護認定調査結果をもとに利用者の趣味などを把握するとともに、得意な分野で力を発揮できるよう配慮しながら、利用者と共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話のなかで利用者の希望を把握し、観劇や観光乗船など、皆が喜ぶものを実施している。 誕生日には職員と出かけ、好みの食事やショッピング、墓参りなどの支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族訪問時に必要に応じたケアの相談をしている。 日々の状況を把握しているが、変化があったときの記録を遅滞なく記入するまでには至っていない。	○	利用者と家族の意向を聞くとともに、話し合いにより、利用者主体の介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間の見直しはしているが、その時どきの変化に応じた介護計画の見直しが十分とは言えない。	○	利用者に変化が生じた場合は家族と話し合うとともに、ケア会議での意見を参考に、現状に合った介護計画の見直しが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	夜間時の急な発熱やケガなどには緊急対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の必要に応じて、2週間に1度定期的な往診がある。 また、かかりつけ医に家族が同行していくほか、職員同行で月1回の受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事や水分摂取量に変化が生じた場合は、家族やかかりつけ医と相談するとともに連携を取りながら対応している。 ホームには看取りを体験した職員がおり、救急時の手順も表示している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや排泄時などは職員同士で注意し合い、プライバシーに配慮した支援をしている。 利用者の個人記録や書類はユニットごとに施錠できる保管庫に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の声かけで利用者一人ひとりの意向を把握し、散歩や切り絵、折り紙、おはじきなど共用空間で自由にくつろげるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の自家菜園から食材の収穫や料理の下ごしらえ、食事の準備など利用者とともに楽しみながら行っている。 また、食事は利用者のランチョンマットにそれぞれの茶碗をのせ、楽しく食事ができる配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には1日おきであるが、希望により毎日入浴できる体制になっている。 利用者の希望に対応するため入浴時間帯は幅広く取っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、たたむ、共用場所の清掃、食事の準備片付けなど、利用者とともに和やかな雰囲気支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	数人の利用者は一人で自由に散歩している。 また、職員同行でいくつかの散歩コースを花を摘みながら地域の人と触れ合う支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には7時から18時まで施錠していない。 玄関を出てもすぐに止めることはせず、危険のないよう様子をみている。 玄関を出て道沿いを一人で歩いている利用者を目にしたときは、地域の方々からホームに電話をもらえる関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を緊急通報装置の確認と合わせて実施している。 災害が発生したときには地域の方々の協力を得られる体制となっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の摂取量をそれぞれ個人ごとにチェックし記録している。 カロリー計算はしていないが、無添加の食材にこだわりホームで栽培した野菜を利用している。 ホーム利用後服用する薬の量が減った利用者もおり、利用者の状態をよく把握したうえで支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関では人馴れした犬が迎えるとともに、正面の庭園に足湯の場を設け、屋内に板の間、畳の間と二間続きの共用空間がある。 内壁はガラス面を多くして、ホーム内から四季の移ろいを感じとれるよう配慮した造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のカーテンは利用者が自宅で使用していた物を使用している。 その他家具、鏡台、家族の写真、仏壇などを置いた部屋もあり、利用が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。